

# フィールドの構成変更

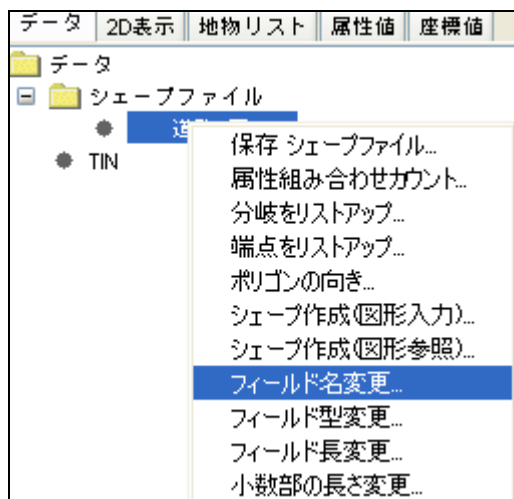
## 目次

1. 機能 .....	1
2. 更新記録 .....	4

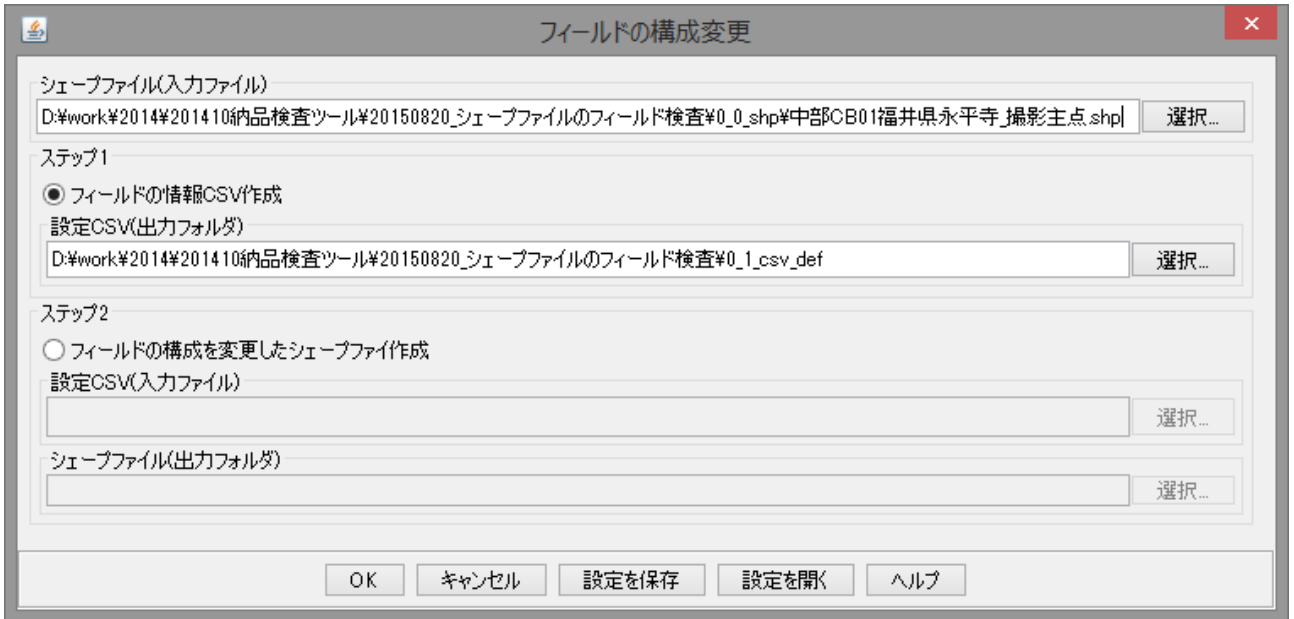
### 1. 機能

シェープファイルのフィールド名・フィールド型・フィールド長・少数点以下桁数の設定をまとめて変更します。

(開いている個々のシェープファイルについては、ポップアップメニューでそれぞれの属性が変更できます(下図)が、この「フィールドの構成変更」では、複数のシェープファイルについて一括で変更できます。)



まず「ステップ1」で、元のシェープファイルから、フィールド名・フィールド型・フィールド長・少数点以下桁数を記録した CSV ファイルを作成します。



**シェープファイル(入力フォルダ)**

フィールドの構成を変更したいシェープファイルを指定します。ダイアログで複数のシェープファイルが選択された場合、テキストフィールドには「|」(Vertical bar)で区切って、複数のファイル名をセットします。

例「D: ¥temp¥test1.shp|D: ¥temp¥test2.shp|D: ¥temp¥est3.shp」

**設定 CSV(出力フォルダ)**

選択されたシェープファイルと同じ名前で CSV ファイルを作成します。

設定 CSV ファイルの 1,2,3,4 列目はシェープファイルのフィールド名・フィールド型・フィールド長・少数点以下桁数です。5 列目はコメントで、変換時には参照しません。

	A	B	C	D	E
1	AZACD	N	10	0	メニュー「フィールドの構成変更」からの出力
2	地番	C	71	0	1列:フィールド名(文字列)
3	CHIMOKU	N	5	0	2列:フィールドの型、C=文字列、N=整数、F=実数(1文字)
4	TIMOKU2	N	5	0	3列:フィールドのバイト数(整数、1から255まで)
5	TISEKI1	N	13	11	4列:小数点以下桁数(実数の場合、0か正の整数)
6	OWNERCD	C	12	0	5列:コメント

この CSV ファイルをテキストエディタなどで、フィールド名等、必要な箇所を変更します。

	A	B	C	D	E
1	コード	N	10	0	メニュー「フィールドの構成変更」からの出力
2	地番	C	71	0	1列:フィールド名(文字列)
3	地目	N	5	0	2列:フィールドの型、C=文字列、N=整数、F=実数(1文字)
4	地目2	N	5	0	3列:フィールドのバイト数(整数、1から255まで)
5	地籍	N	13	2	4列:小数点以下桁数(実数の場合、0か正の整数)
6	所有者	C	12	0	5列:コメント
7	氏名	C	100	0	

次に「ステップ2」で、フィールド名・フィールド型・フィールド長・少数点以下桁を変更したシェープファイルを作成します。

フィールドの構成変更

シェープファイル(入力ファイル)  
D:\work\2014\201410納品検査ツール\20150820\_シェープファイルのフィールド検査\0\_0\_shp\中部CB01福井県永平寺\_撮影主点.shp 選択...

ステップ1  
 フィールドの情報CSV作成  
設定CSV(出力フォルダ)  
D:\work\2014\201410納品検査ツール\20150820\_シェープファイルのフィールド検査\0\_1\_csv\_def 選択...

ステップ2  
 フィールドの構成を変更したシェープファイル作成  
設定CSV(入力ファイル) 選択...  
シェープファイル(出力フォルダ) 選択...

OK キャンセル 設定を保存 設定を開く ヘルプ

#### 設定 CSV(入力ファイル)

フィールド名・フィールド型・フィールド長・少数点以下桁を変更した CSV ファイルをひとつ指定します。

#### シェープファイル(出力フォルダ)

フィールド名・フィールド型・フィールド長・少数点以下桁を変更してシェープファイルを作成します。元のシェープファイルとは別のフォルダを指定します。

「シェープファイル(入力ファイル)」で指定されたシェープファイルのうち、**フィールドの数**が同じシェープファイルを変換します。フィールドの数と同じシェープファイルが複数ある場合、ひとつの設定 CSV でまとめて変更できます。

設定 CSV での行数と、シェープファイルのフィールド数が異なる場合は変換できません。

変更するのは、フィールドの定義のみで、各レコードの内容はそのままコピーします。例えば、フィールド長が小さくなった場合、レコードに記録されている文字列が途中でできた状態で保存されます。事前にシェープファイルを開いて、メニュー「フィールド長変更」で、実際のデータのバイト数を確認しておいてください。下図の、「現在のフィールド長」の括弧()の中の数字が全レコードでの最大のバイト数です。

フィールド長変更

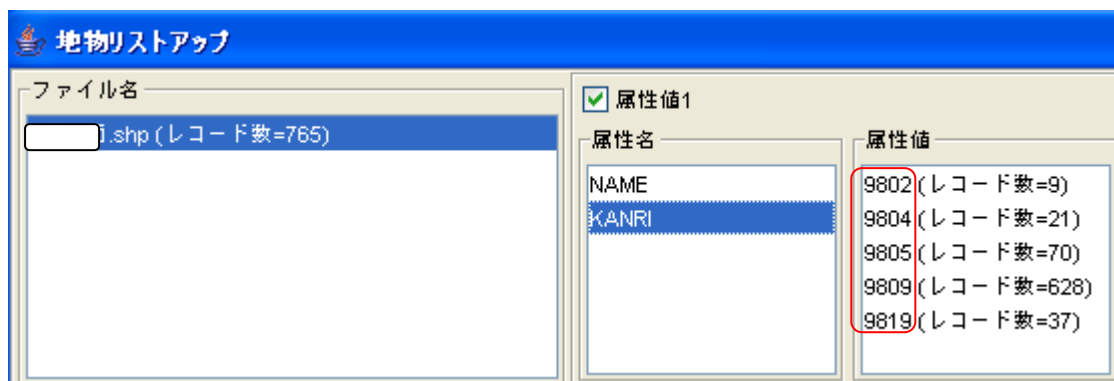
新フィールド長のタイプ後、エンターキーをタイプしてください

フィールド名	現在のフィールド長	変更後のフィールド長
NAME	64(22)	
KANRI	10(4)	

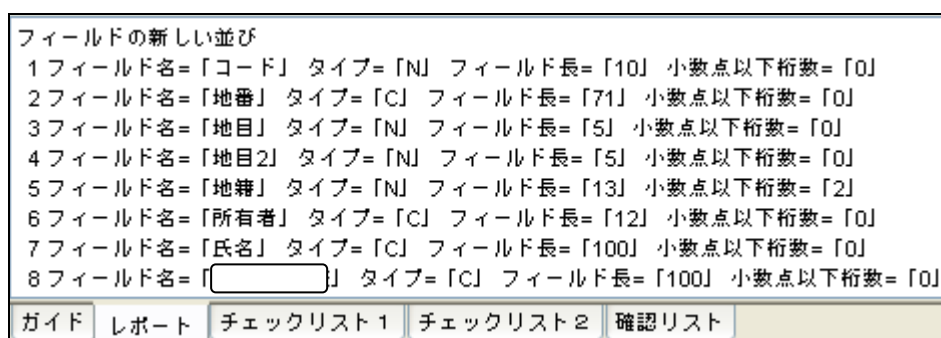
OK キャンセル

同様に、フィールドの型を文字列から数値に変更する際にも、事前に確認が必要です。メニュー「要素リストアップ」

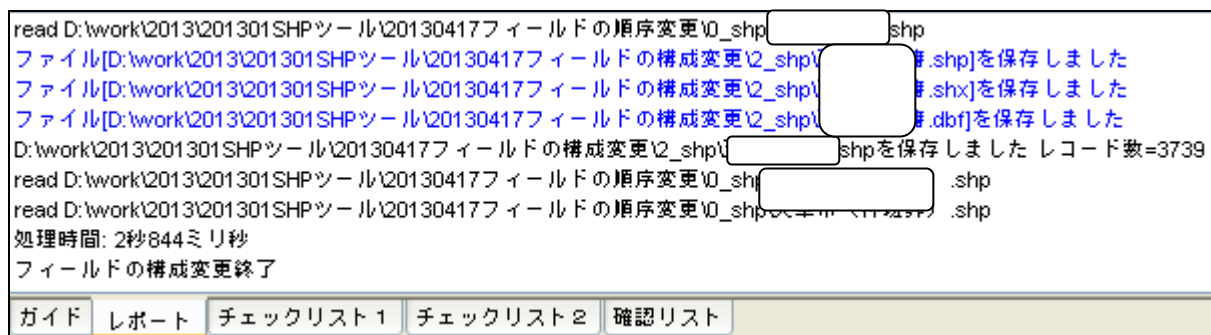
で、属性値の内容を確認してください。



レポートパネルには確認用に、設定 CSV の内容を表示します。



「入力シェープファイル(入力ファイル)」で指定されたシェープファイルはすべてリードしますが、設定 CSV に該当するシェープファイルのみ作成します。



## 2. 更新記録

2016/11/07

- ✓ダイアログに「ヘルプ」ボタンを追加、この説明を表示

2017/05/24

- ✓.prj ファイルがあれば、コピーするようにしました
- ✓3次元のポイントのシェープファイルについては、measure の値もコピーするようにしました。

2017/05/30

- ✓3次元のポイントのシェープファイルについて、各レコードに記録するシェープタイプが、本来、3次元のポイント

を示す「11」になっていなければならないのに、2次元のポイントの「1」になっていました。そのため、作成したポイントを ArcGIS Explore 等で表示すると、Z=0.0 の位置に表示される問題がありました。「11」に修正しました。